

請 願 文 書 表	
受理年月日 及び番号	令和5年9月1日 第21号
件 名	小学校で「ゲノム編集の野菜」を栽培させない、 食べさせないことを求める請願
請 願 者	<div style="background-color: black; width: 100%; height: 15px; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="background-color: black; width: 60%; height: 15px; margin-bottom: 5px; margin-left: 20px;"></div> <div style="background-color: black; width: 50%; height: 15px; margin-left: 40px;"></div>
紹介議員	関川 けさ子
請願の要旨	次頁のとおり
付託委員会	文教委員会

請願理由

現在、ゲノム編集によって遺伝子操作された食品が日本だけで流通しています。高ギャバトマト、肉厚マダイ、成長の早いトラフグです。これまでは主にオンラインでの販売にとどまっていたが、今年7月、都内百貨店でゲノム編集トラフグが期間限定で店頭販売されました。ゲノム編集食品は、安全性審査も食品表示も義務化されていません。私たちは、動物に食べさせての長期試験が行われていないものを知らずに購入し、食べてしまう可能性があるのです。

ゲノム編集とは、特定の遺伝子を壊すことにより、生命のバランスや調和を壊し、意図的に障害や病気を作り出す技術といえます。肉厚マダイは、筋肉の成長を抑える遺伝子を壊すことで肉厚になります。しかし、急速に筋肉が発達してしまうために脊椎の成長に障害が発生し、機敏に泳げず、ゆっくりとしか動けなくなります。成長の早いトラフグは、食欲を抑制する遺伝子を壊して、太りやすくしています。しかし、血糖値や肝臓に異常が生じやすくなります。このように病的な状態で育つことを強いられているのが、ゲノム編集なのです。

子ども達が、ゲノム編集食品を食べた際のリスクは未知数です。ゲノム編集は、目的以外の遺伝子を破壊する「オフターゲット」と呼ばれる現象が起きる可能性が指摘されています。目的以外の遺伝子が破壊されると、予想外の毒性やアレルギーを引き起こす可能性があります。また、ゲノム編集には「抗生物質耐性遺伝子」が挿入されます。「抗生物質耐性遺伝子」が削除されずに体内に取り込まれると、抗生物質耐性菌が出現し、細菌が感染しても抗生物質が効かない体になる恐れがあります。

パイオニアエコサイエンス社とサナテックシード社は、ゲノム編集トマトの苗を2023年に全国の小学校に無償で配布する計画を発表しています。市民団体「OKシードプロジェクト」の調査では、全国200を超える自治体がゲノム編集トマトの苗を「受け取らない」と表明しています。「受け取る」と回答した自治体はありません。文京区でも子ども達を守るために、「安全性に疑いがあるものは使用しない」という予防原則で対応することが必要です。

以上のような観点から、文京区議会に対して下記の事項を請願いたします。

請願事項

- 1 動物に食べさせての安全評価がされておらず、目的以外の遺伝子の破壊により予想外の毒性やアレルギーを引き起こす可能性がある「ゲノム編集食品（上記のトマト含む）」は、文京区の小学校で子ども達に栽培させない、食べさせないよう区に求めること。
- 2 「ゲノム編集食品」は、加工品を含め、学校給食に使用しないよう区に求めること。